

同窓会の幹事を任された中村は、久しぶりに高校時代の友人に電話を入れた。

「はい、山本です」

「夜分遅く恐れ入ります。中村と申しますが直子さんいらっしゃいますか？」

「まだ仕事から戻ってないんですが・・・」

「あ、そうですね。私、直子さんの高校時代の友人なんですけど、来月同窓会を開くことになりました、その連絡なんです」

「そうですね。それでは、戻りましたら直子の方からすぐお電話させます。すみませんが、もう一度お名前をお願いします」

「中村由紀と申します」

「中村由紀さんですね。そちらのお電話番号は、直子は存じておりますか？」

「はい、ご存知だと思いますが一応申し上げます。二四一―四六〇―です」

「二四一―四六〇―ですね、わかりました。直子は最近忙しいようで、帰りが遅い日が多いんです。あまり遅いようでしたら明日連絡させますね」

「すみません。あいにく明日は一日中外出してしまいますので、できれば伝言をお願いしたいのですが」

「はい、どうぞ」

「来月十二日の木曜日に、七時から目黒にある松乃屋という日本料理屋で同窓会を開くことになりましたので、その出欠を来週までに知らせてほしいとお伝え下さい」

「来月十二日の七時からですね。わかりました、伝えておきます」

「よろしく願います」

数日後、山本から連絡が入った。

「はい、中村です」

「夜分恐れ入ります。山本と申しますが由紀さんご在宅でしょうか？」

「直子？ 久しぶり」

「本当、久しぶりね！ この前同窓会の連絡をくれたそうだけど、残念ながら十二日は出席できそうにないの。最近忙しくてなかなか定時で帰れないんだ。十二日は七時前に終わったとしても、それから目黒まで行ったら大分遅くなるし・・・」

「もしよかったら、途中からでも出席できない？ みんな久しぶりに会えるのを楽しみにしているから」

「それじゃ・・・早く終わったら顔を出すようにしようかな。一応、お店の住所と電話番号を教えてください」

「住所は東京都目黒区中目黒二―七、電話番号は〇三―二六五―一二四一、松乃屋っていう日本料理屋なの。大通り沿いにあるから場所はすぐになるとわかって思うわ」

「わかった、ありがとう」

「それじゃ、当日楽しみにしてるから」

中村はそう言って電話を切り、まだ出欠のはっきりしない何人かに、再度確認の電話を入れた。